



## 新しい静岡の姿

徳川宗家十八代当主・静岡商工会議所最高顧問 徳川恒孝つねたか



新しい年を迎えました。新しい年が日本にとって、また静岡に取って明るい元気の良い年になってくれることを心から祈っています。

昨年末には続けて静岡に来る機会がありました。一つは清水駅前「東照宮里程標」が移転して、駅前に出来た新築の高層ビルの前に設置された除幕式に参列しました。そのお式の後に、新しい清水のシンボルタワーであるビルを御案内して頂きましたが、懐かしい清水港を眼下に見下ろす最上階からは遠く伊豆半島まで見渡す素晴らしい眺望でした。丁度その時に練習帆船「日本丸」が静々と入港して来たのは大変に印象的でした。

明治の初めに旧幕臣と地元の方々が立てられた里程標がこの新しいビルの前に移転したことで、これからは若い人たちの格好な待ち合わせ場所になってくれれば良いな

あ、とつくづく思いました。もう私にはそう言うワクワクするデートはとても無さそうなのは寂しい限りでしたが、替わりにその夜は清水の方々と久し振りになんとも美味しい御寿司を満喫させて頂きました。「デートより寿司と美酒」もまた「良し」です。

その四日後に、今度はグランシップで静岡商工会議所開所百二十年記念の盛大な御集りがありました。その式典の後に日本平の新装なったホテルに行きました。その広々としたテラスに出て見ますと、折からの満月の下に駿河湾が輝いて、言葉では言い表せないほど素晴らしい美しさでした。

夕日の中を入港して来た日本丸と、皓々たる満月の光を受けて輝く駿河湾。その向こうに続

く伊豆半島の黒い影と町々の光の鎖を眺めることが出来て、なにか新しい静岡の息吹のようなものを強く感じました。

清水の新しい高層ビルの中には、静岡市の子供達が自分たちで造った作品を「売る」という、新しく楽しい経験をする仕組みが出来ると伺いました。静岡市中の子供達が仲良くこの新しい施設で楽しい体験をして、街中に歓声が広がってくれば素晴らしいことです。

「世界お茶まつり」も今年は春と秋に分けて行われます。緑の新芽の美しい牧の原の茶畑に世界の人々が集まり、静岡の美しさと素晴らしさを満喫する姿を見るのも楽しみです。

静岡にとって、今年は「良い年になる」と強く感じましたが、それが実現することを心から期待し、祈っています。

日本平ホテルから清水港の夜景と富士山を望む